

① 国民の価値観・幸福感の変化と多様化は、社会のあり方を変えるか？

- 経済社会の変化の中で価値観や幸福感はどのように変化し、今後変化していくのか？
また、どのような価値観・幸福感の変化に注目するか？
- 価値観や幸福感の変化と多様化は、今後の社会のあり方にどのような影響を与えるか？
例えば、経済的価値の再評価などは、日本の社会像（例えば共同体のあり方や家族のあり方など）を変容させるのか？それとも、日本らしさ（伝統・文化・歴史など）により、日本の社会像は変わらないのか？

② 国民の価値観・幸福感の変化と多様化は、コミュニティのあり方を変えるか？

- 価値観や幸福感の変化・多様化を受けて、身近なコミュニティのあり方にどのような変化が感じられるか？
- シェアリング、疑似家族、ネットコミュニティ、NPO、地域社会、新しい「伝統的共同体」などは、社会全体を見据えた行政の役割をどのように変えるのか？特に、どのような行政分野でその影響は大きいと考えられるか？
- ネット空間の出現は、実社会におけるつながりを代替し得るか？

③ 国民の価値観・幸福感の変化と多様化は、行政や政治に対する国民の意識をどう変えるか？

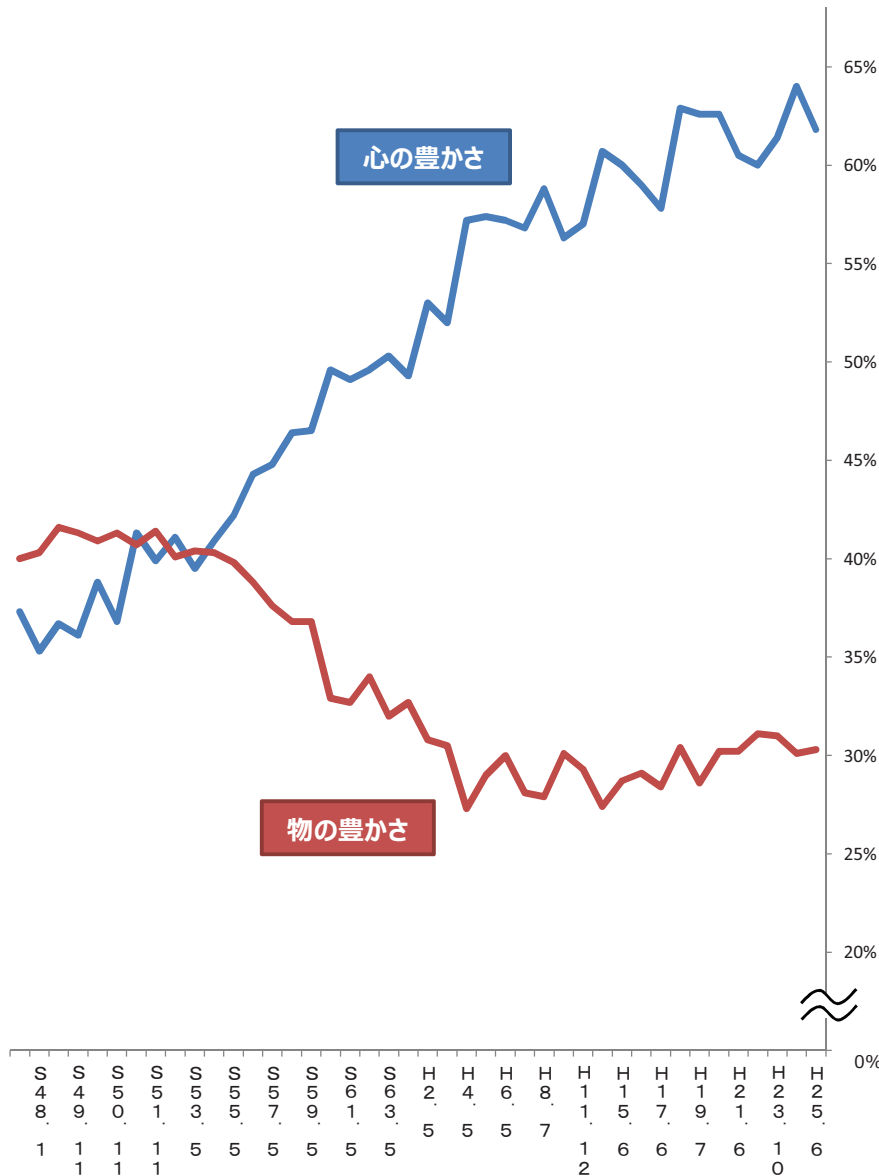
- 国民にこの国を支えているとの意識はあるか？
- 国民一人一人が、主体的に社会形成と意思決定に参加する社会（新しい参加型の民主主義）は、どうすれば実現するか？

（第2回データ資料集）

内閣官房行政改革推進本部事務局

内閣府「国民生活に関する世論調査」
を基に、事務局において作成

これからは心の豊かさ、まだ物の豊かさ
(時系列)



博報堂生活総合研究所「生活を
楽しむ調査」(2011.3)

「生活を楽しむために必要なもの」年代別ランキングトップ5

10代
50名 [n=150]
「情報機器やコンテンツ」が、全体より10ポイント以上高いのが一番の特徴です。他の項目を見ても、若者らしく自ら楽しむ姿勢がうかがえます。

順位	生活を楽しむために必要なもの	回答率 (%)
1	家族や友人、他者との関係	24.7
2	情報機器やコンテンツ	15.3
3	趣味やスポーツ	12.7
3	前向きな気持ち、夢や目標	12.7
5	お金、経済力	11.3

20代
100名 [n=300]
20代になり、お金や時間に対する意識が高まりますが、10代と同様に、趣味や友人とのつき合いを通して、楽しい時間を作ることに積極的です。

順位	生活を楽しむために必要なもの	回答率 (%)
1	家族や友人、他者との関係	23.7
2	お金、経済力	18.7
3	趣味やスポーツ	14.3
4	時間のゆとり	11.3
5	前向きな気持ち、夢や目標	8.7

30代
101名 [n=303]
仕事や子育てなどで忙しさが増す30代。「時間のゆとり」を求める声が50代に次いで高く、生活基盤のゆとりを重視する姿勢が高まってきます。

順位	生活を楽しむために必要なもの	回答率 (%)
1	家族や友人、他者との関係	21.1
2	お金、経済力	19.5
3	時間のゆとり	14.5
4	趣味やスポーツ	11.6
5	前向きな気持ち、夢や目標	8.9

40代
101名 [n=303]
「前向きな気持ち、夢や目標」が10代に次いで高い40代。しかし一方で、忙しい盛りにあるためか、心のゆとりや休息を求める声も目立ちました。

順位	生活を楽しむために必要なもの	回答率 (%)
1	家族や友人、他者との関係	19.1
2	お金、経済力	18.5
3	時間のゆとり	11.6
4	前向きな気持ち、夢や目標	10.2
5	趣味やスポーツ	9.6

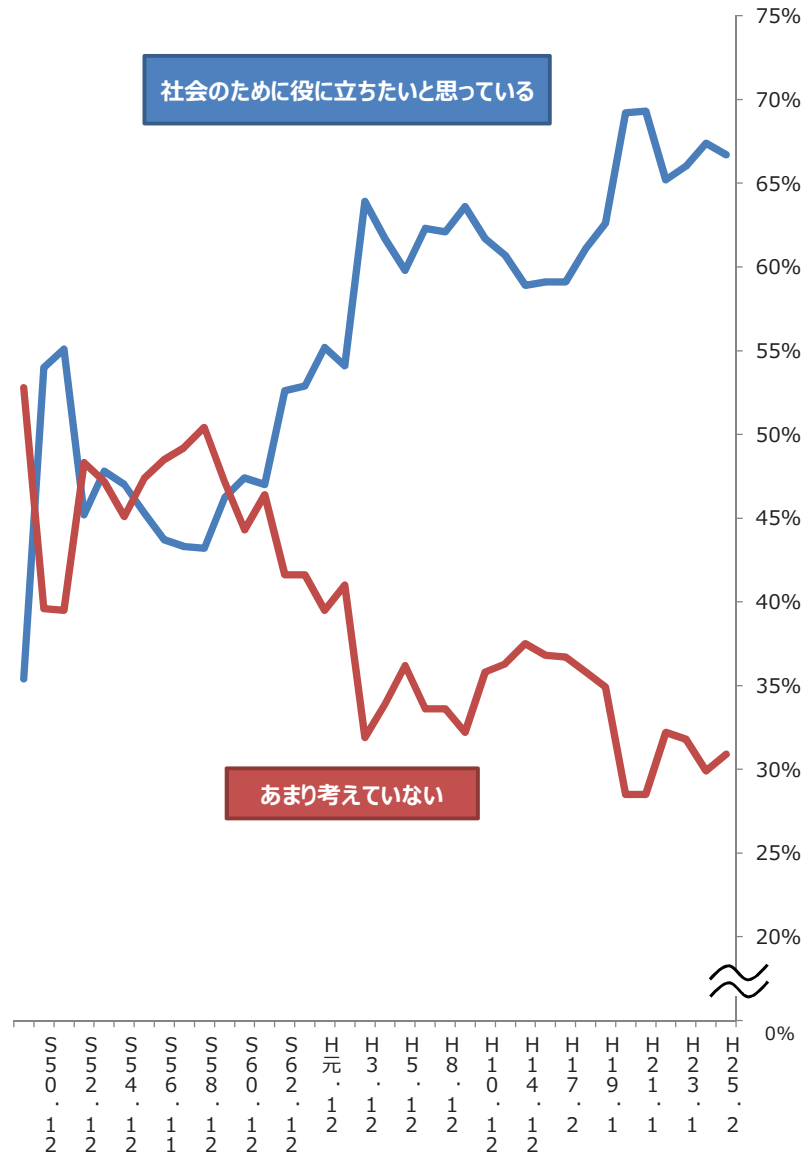
50代
101名 [n=303]
「お金、経済力」を挙げる声が、全世代で最も多い50代。健康に対する意識も高まり、老後に向けた備えが気になり始めるようです。

順位	生活を楽しむために必要なもの	回答率 (%)
1	お金、経済力	23.4
2	家族や友人、他者との関係	17.5
3	時間のゆとり	14.9
4	健康	13.9
5	前向きな気持ち、夢や目標	8.9

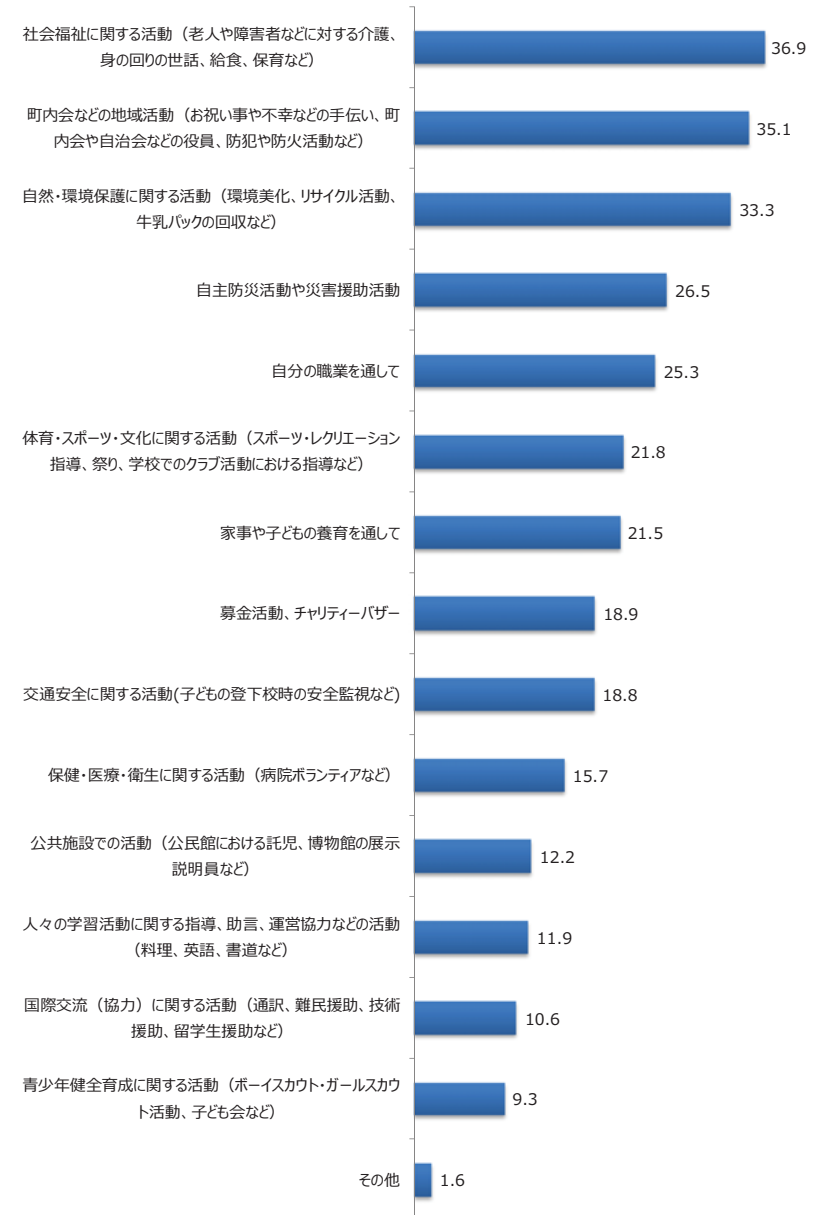
60代
100名 [n=300]
第二の人生を楽しむために必要なものは、ある程度のお金と元気な身体。健康重視で、いきいきとした老後を目指しています。

順位	生活を楽しむために必要なもの	回答率 (%)
1	お金、経済力	20.0
2	健康	16.0
3	家族や友人、他者との関係	14.7
4	時間のゆとり	13.0
5	趣味やスポーツ	9.7

社会への貢献意識 (時系列)

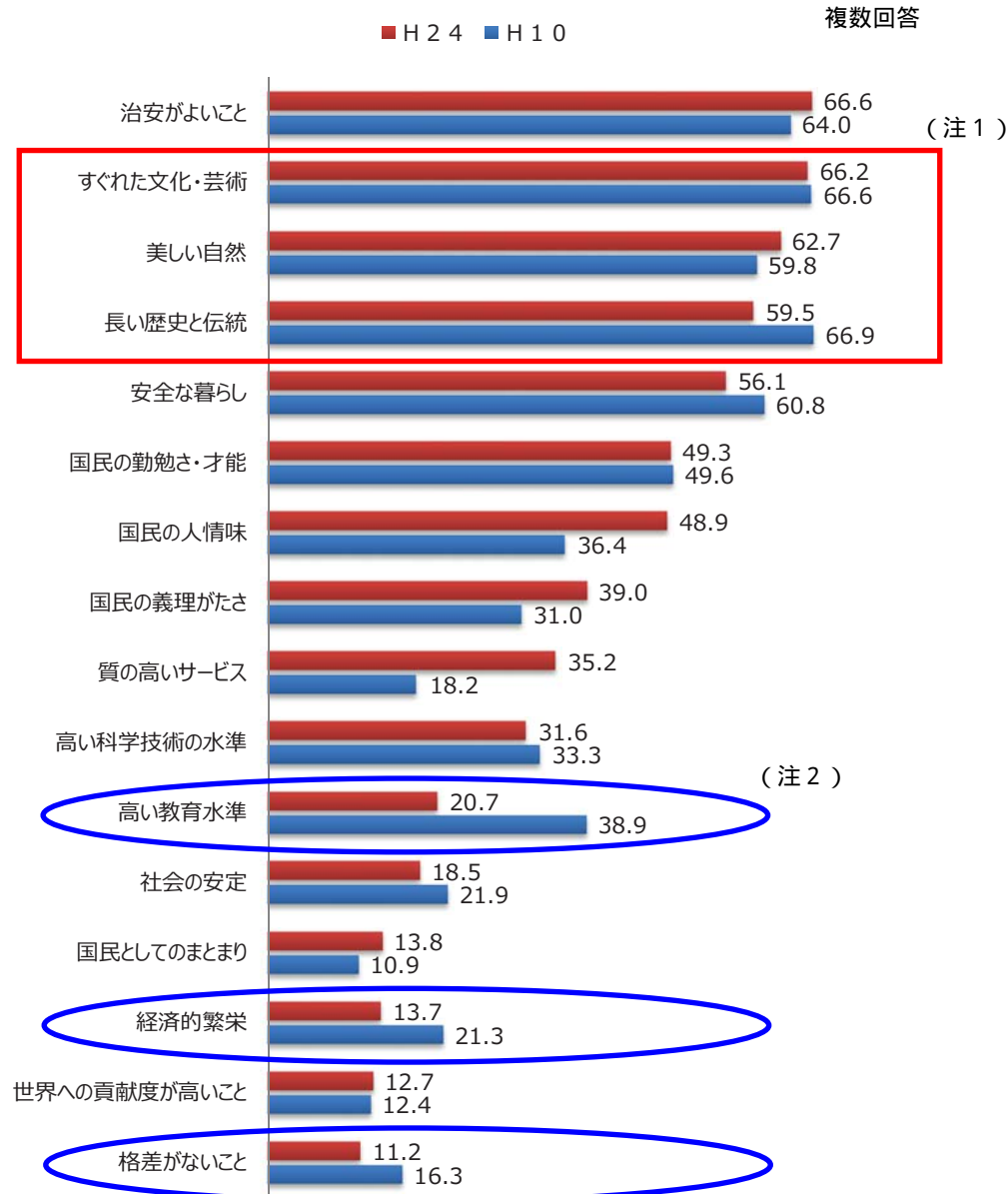


社会への貢献内容 (平成25年2月)



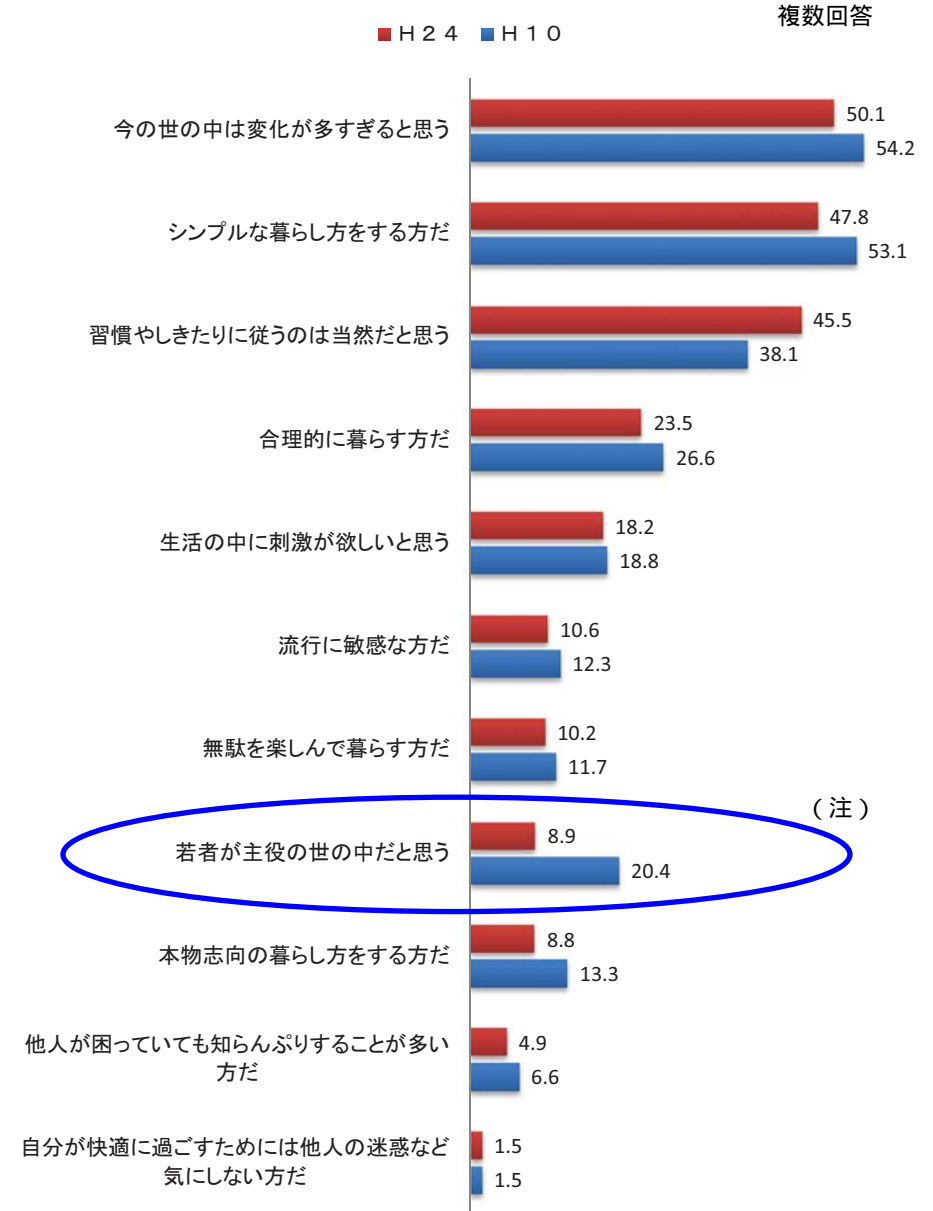
社会の一員として、「何か社会のために役に立ちたいと思っている」と答えた者が、複数回答

日本の国や国民について、誇りに思うことは何か



(注1) 赤囲い：伝統的な日本らしさに関する指標
(注2) 青囲い：減少幅が大きい指標

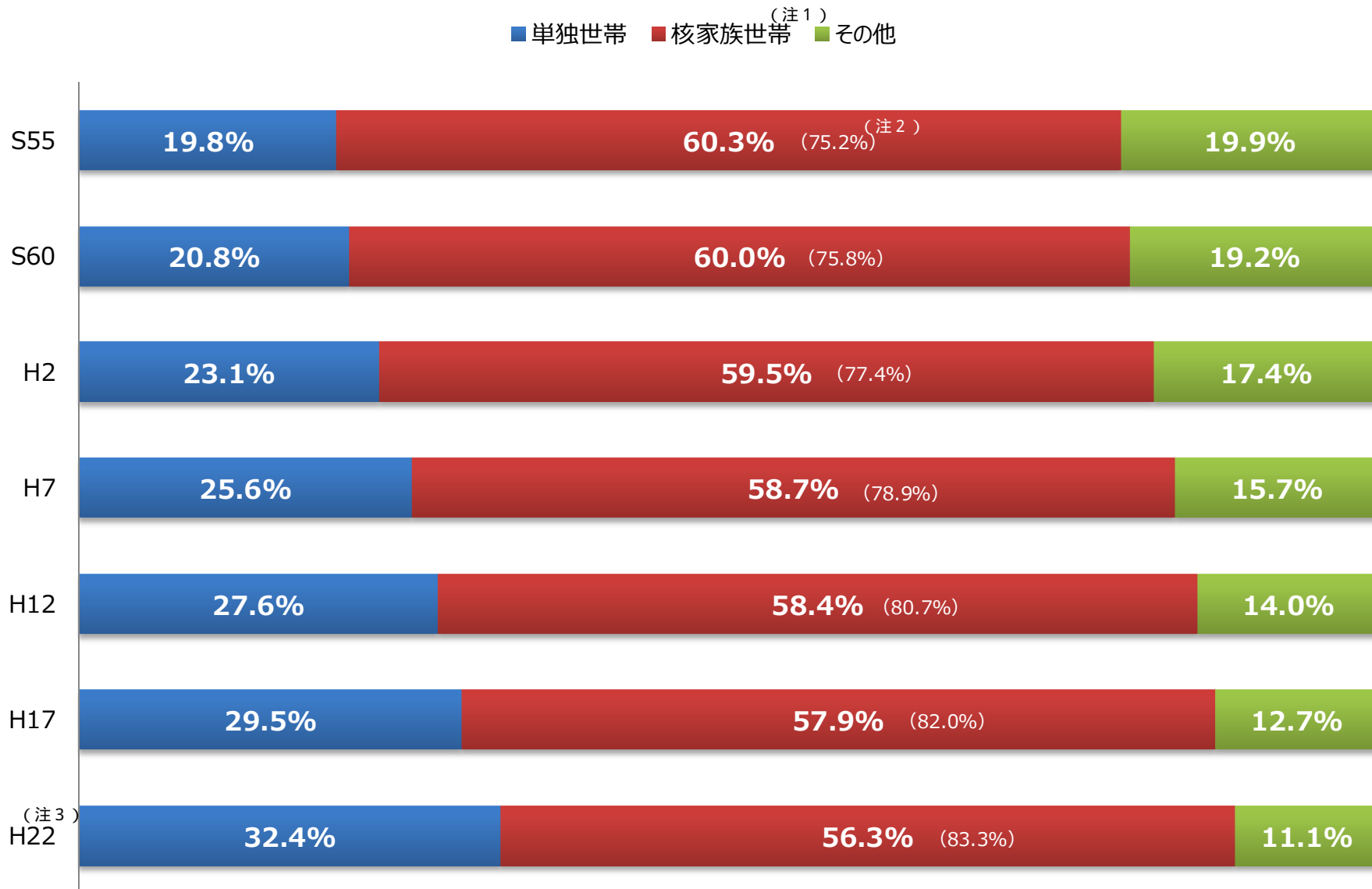
世の中や暮らしの考え方について



(注) 青囲い：減少幅が大きい指標

総務省「国勢調査」を基に、
事務局において作成

世帯構成の推移



(注1) 核家族世帯とは、「夫婦のみの世帯」「夫婦と子供から成る世帯」「男親と子供から成る世帯」「女親と子供から成る世帯」を表す

(注2) 単独世帯を除いた世帯数を100とした場合の割合

(注3) H22のみ、「世帯の家族類型」の新分類区分による結果

子供信託家族

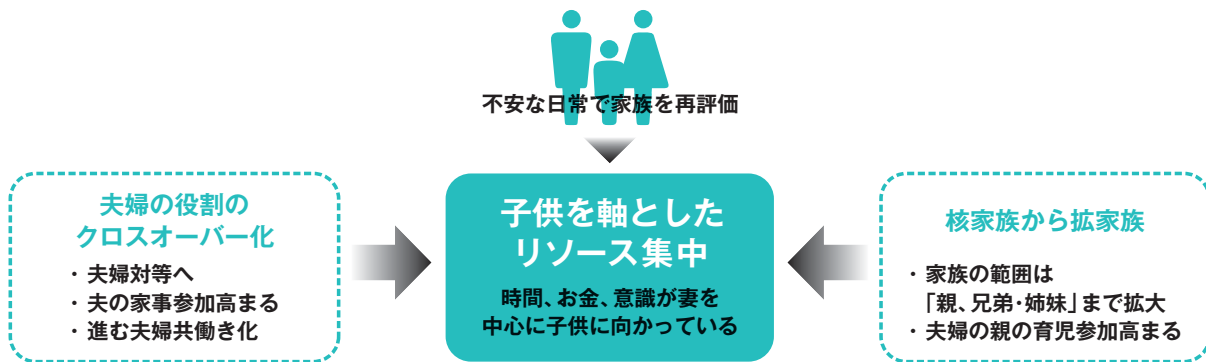
3.11後、子供に集中する家族資源

- 親子は、「時間、お金、意識」の重心をより「子供」に置く関係へ
 - 夫婦は、フラット化し、お互いの役割がクロスオーバーした関係へ
 - 親族とは、「親」「兄弟・姉妹」まで家族とみなし助けを得る「拡家族」関係へ

1988年の調査開始から、2008年の前回の調査まで日本の家族は「個性化」の大きな流れの中にいました。夫婦はそれぞれの個性を大事にし、友達のように振る舞い、なるべく自分の自由な時間を確保する。そんな傾向が最高潮に達した2008年。個性化しつつも家族としての温かみを確保するために、あえて家族らしい行動をするという「保温家族」という現象が生まれました。

しかし、2011年の東日本大震災を経た2013年の調査で見えてきたのは、これまでの流れとは異なる家族の姿でした。未曾有の災害、リーマンショック後の長引く不況を経た日本の家族は、不安な日常の中で家族・子供の大切さを再認識したのでしょう。不透明な未来へ子供を送り出すために、「時間、お金、意識」という家族リソース配分の重心を子供に向けようとしていたのです。そして、より多くのリソースを生み出すため、夫婦共働きを進め、夫の家事参加を活性化させるなど、夫婦の役割をクロスオーバー化。さらに、従来の核家族を超えて「親、兄弟・姉妹」も家族とみなし、助けを得ることでリソースを最大化させようという姿も見えてきました。

このような未来に備えた子供へのリソースの集中行動、さらには家族役割の再編は、今までにない変化と言っていいでしょう。先行き不透明な時代に子供を送り出す親が、できるだけ明るい未来をと、持てる力の限りを子供に託す、子供を軸とした新しい家族像が生まれています。

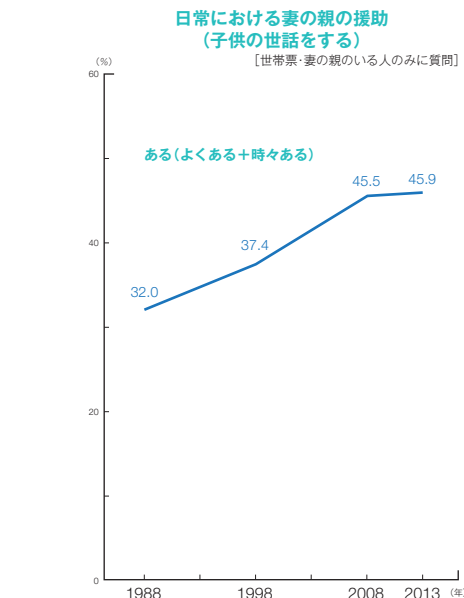
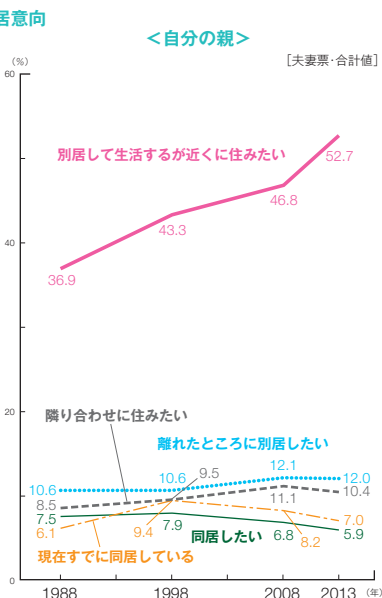
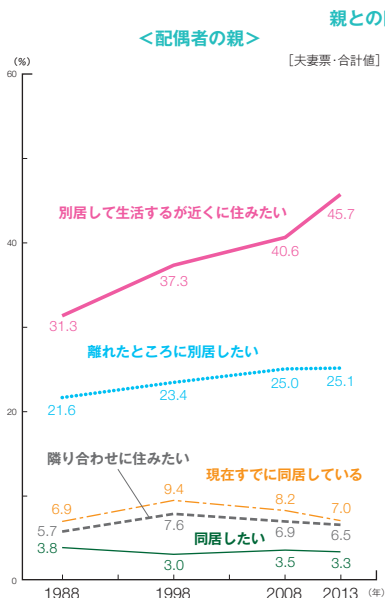


Copyright © 2013 Hakuhodo Institute of Life and Living, Hakuhodo Inc.

親の育児支援が定着している

親族との関係

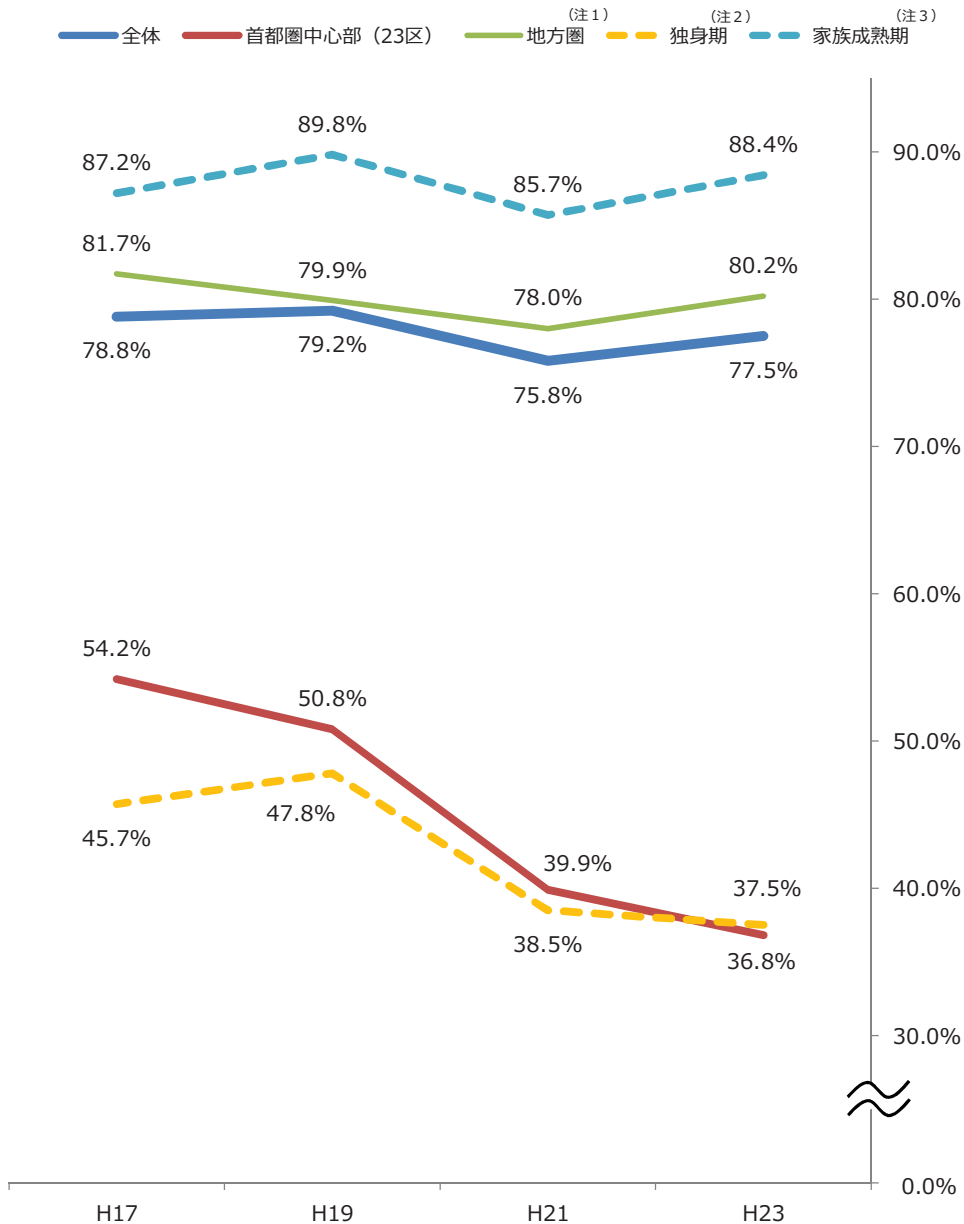
家族のイメージは親まで広がっていますが、同居を希望しているわけではなく、「別居して生活するが近くに住みたい」という「近居」希望が上昇しています。近居のメリットとして、親の援助を受けやすいことが挙げられますが、実際、自分の親に子供の世話をしてもらっている妻は4割以上に達しています。子供への時間等の集中は、親(子供にとって祖父母)も巻き込むカタチで、「拡家族」化が進んでいるのかもしれない。



Copyright © 2013 Hakuhodo Institute of Life and Living, Hakuhodo Inc.

一般社団法人日本自動車工業会「2011年度乗
用車市場動向調査」を基に、事務局において作成

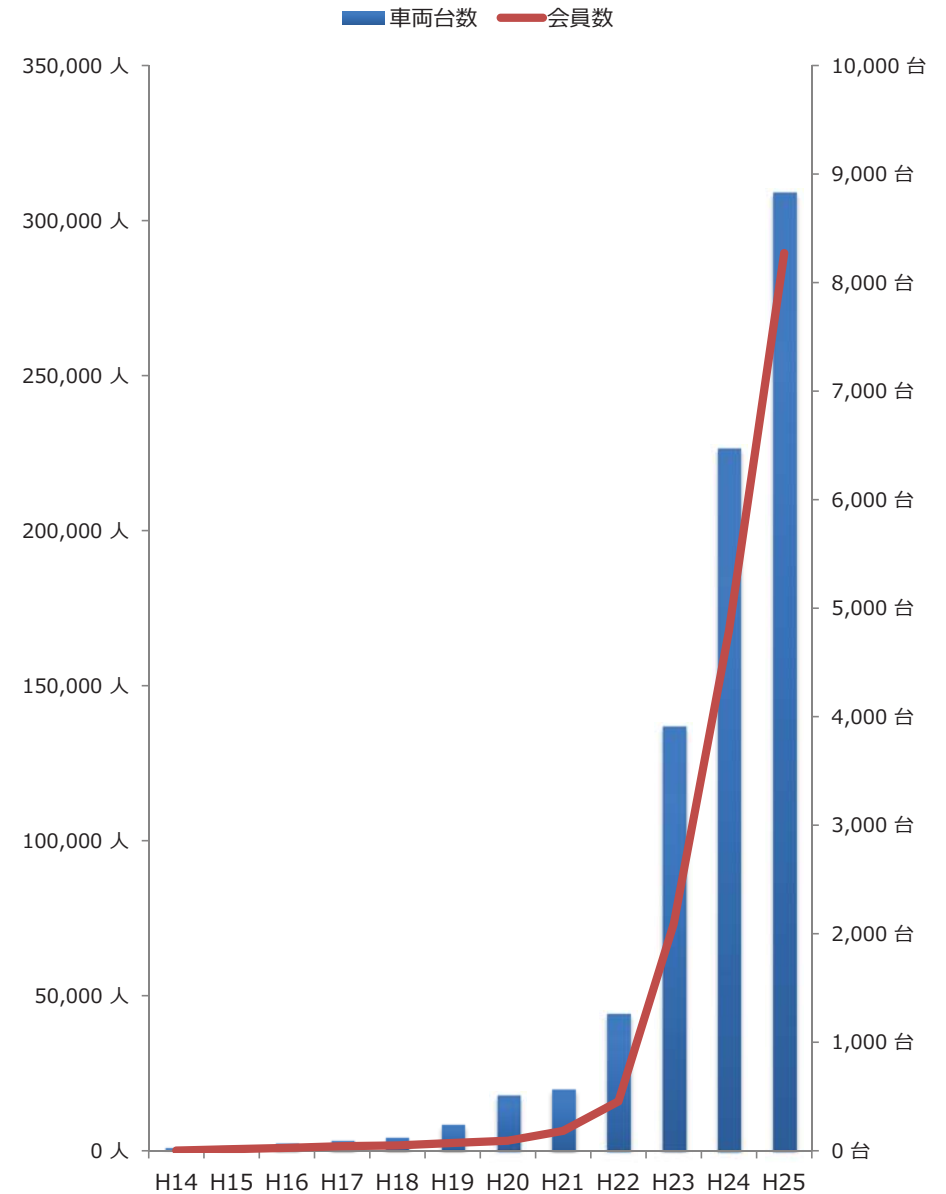
乗用車 世帯保有率の動向



(注1) 地方圏とは、首都圏以外の地域を表す
 (注2) 独身期とは、39歳以下の単身世帯を表す
 (注3) 家族成熟期とは、家計中心者の長子が学校を終えて、まだ結婚していない世帯を表す

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
 「わが国のカーシェアリング車両台数と会員数の推移」
 (2013.2.14) を基に、事務局において作成

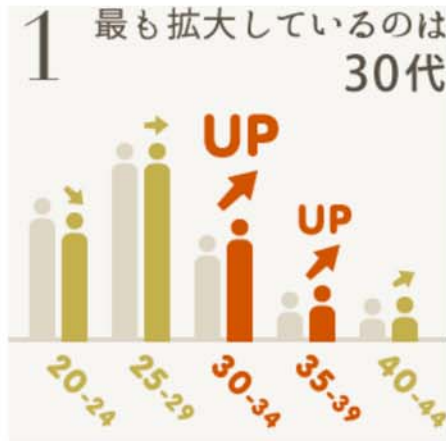
カーシェアリング車両台数と会員数の推移



蓄積された最新の
シェア住居統計データの
一部を公開

ひつじ不動産では累計入居問合せ数10万件の達成を受け、蓄積された統計データの一部を公開することとなりました。

データの公開は『シェア住居白書2008』以来、およそ5年ぶりとなります。「想像より大きく変化している」「思ったよりも変わらない」など、データが描き出すシェア住居の確かな「現在地点」を示すことで、有意義で活発な議論の素地となることを期待しています。



年齢構成 20代前半の割合は徐々に縮小。最も拡大しているのは30代で、40代も増加傾向。



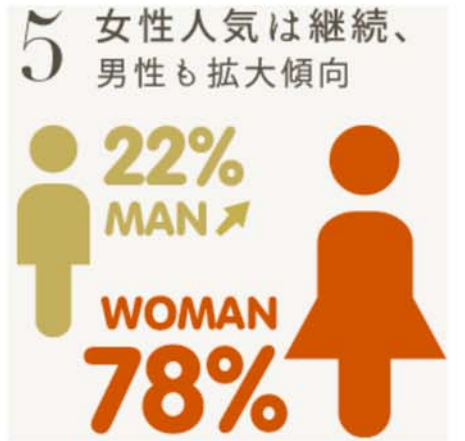
平均年齢 5年間で1.2歳上昇。2007年の27.7歳から、2012年には28.9歳となった。



雇用形態の割合 正社員の割合は5年前と比べ、およそ16%拡大。正社員と非正規雇用の割合は2010年に逆転。学生は2009年をピークにおよそ7%縮小。



社会人の就業先業種分布 業種に大きな偏りはなく、シェア住居で暮らす多種多様な入居者像が垣間見える。



男女比率 引き続き女性に人気が高く、2010年のピーク時には8割を超える割合となった。2011年以後は一転して、男性の割合も少しずつ拡大傾向に。



増加の推移 ここ1、2年で突如増加した印象を持たれがちなシェア住居だが、実は以前からコンスタントに増え続けている。ここ数年は年率30%ほど増加し、3年間で約2倍となった。

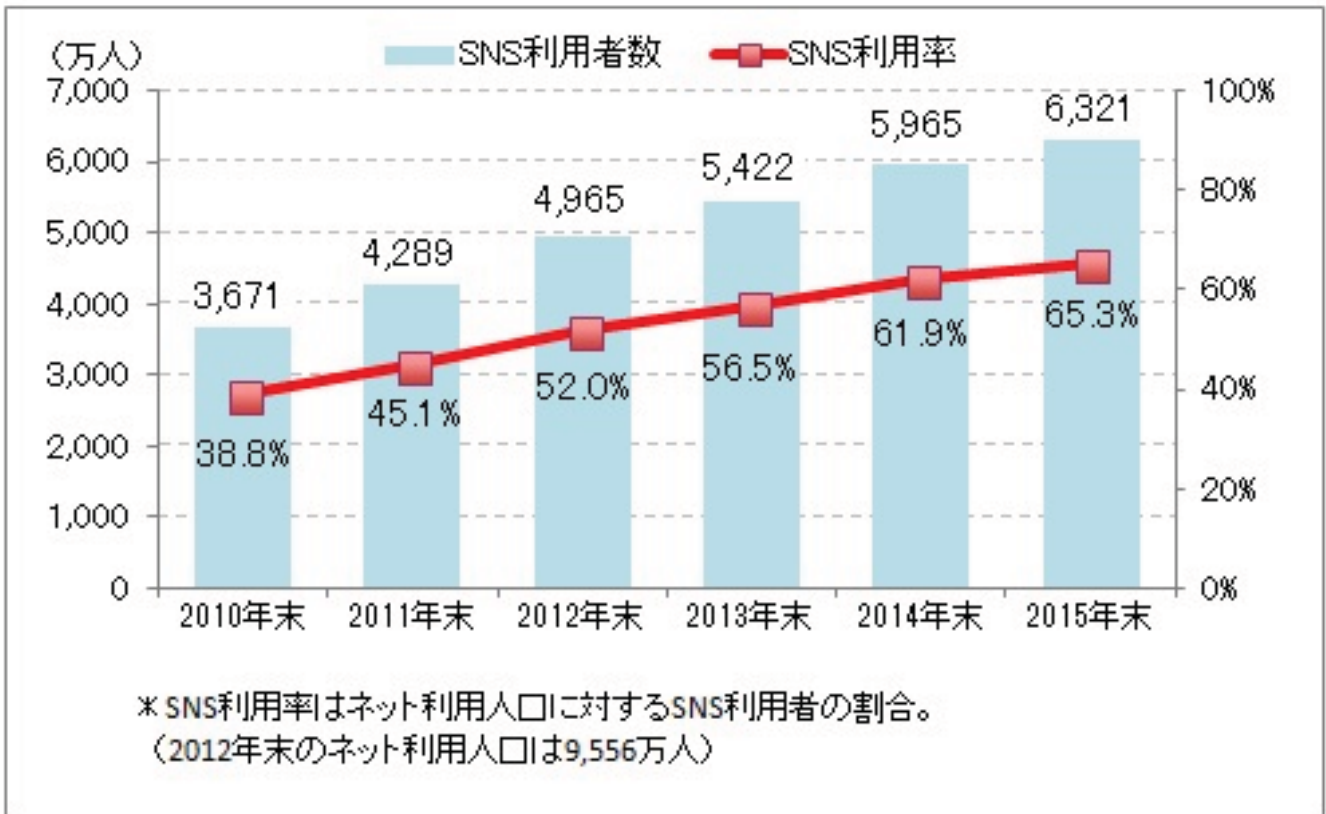


累計物件数と住戸数 2013年の3月末時点で、累計供給数は1,378物件、19,208戸となった。年末までには1,700物件、21,000戸に増える見込み。



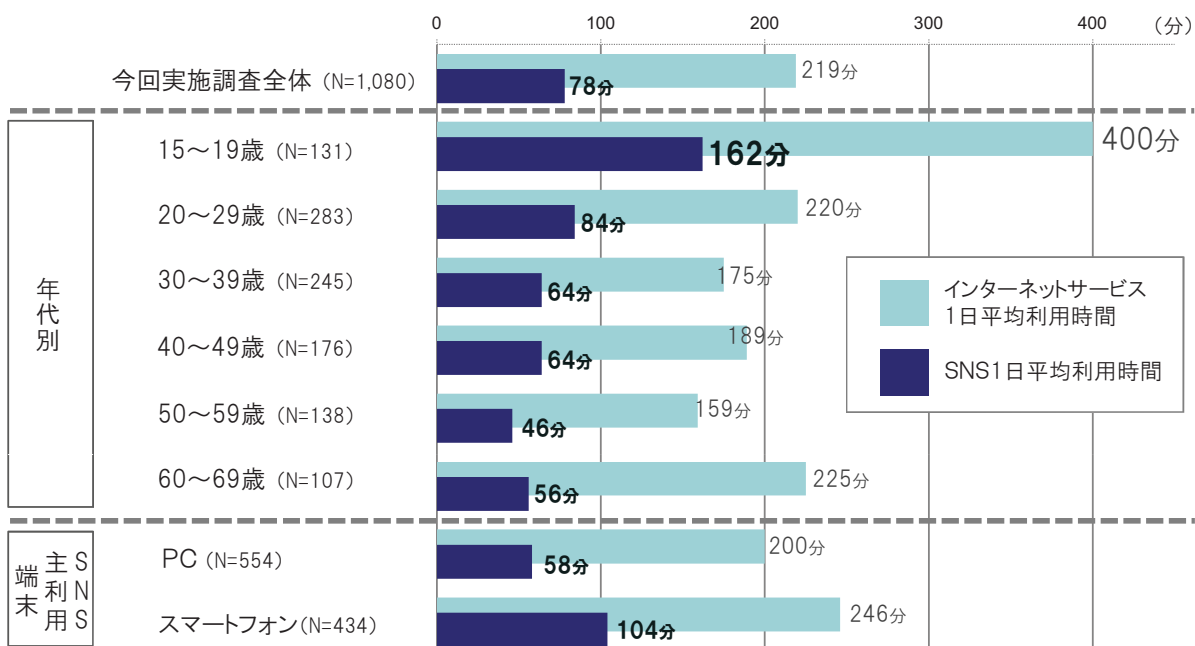
累計入居問合せ数 ひつじ不動産の累計の入居問合せ数は昨年10月、ついに10万件を突破。5万件達成には5年かかったが、その後10万件までは2年2ヶ月で達成。

日本におけるSNS利用者数

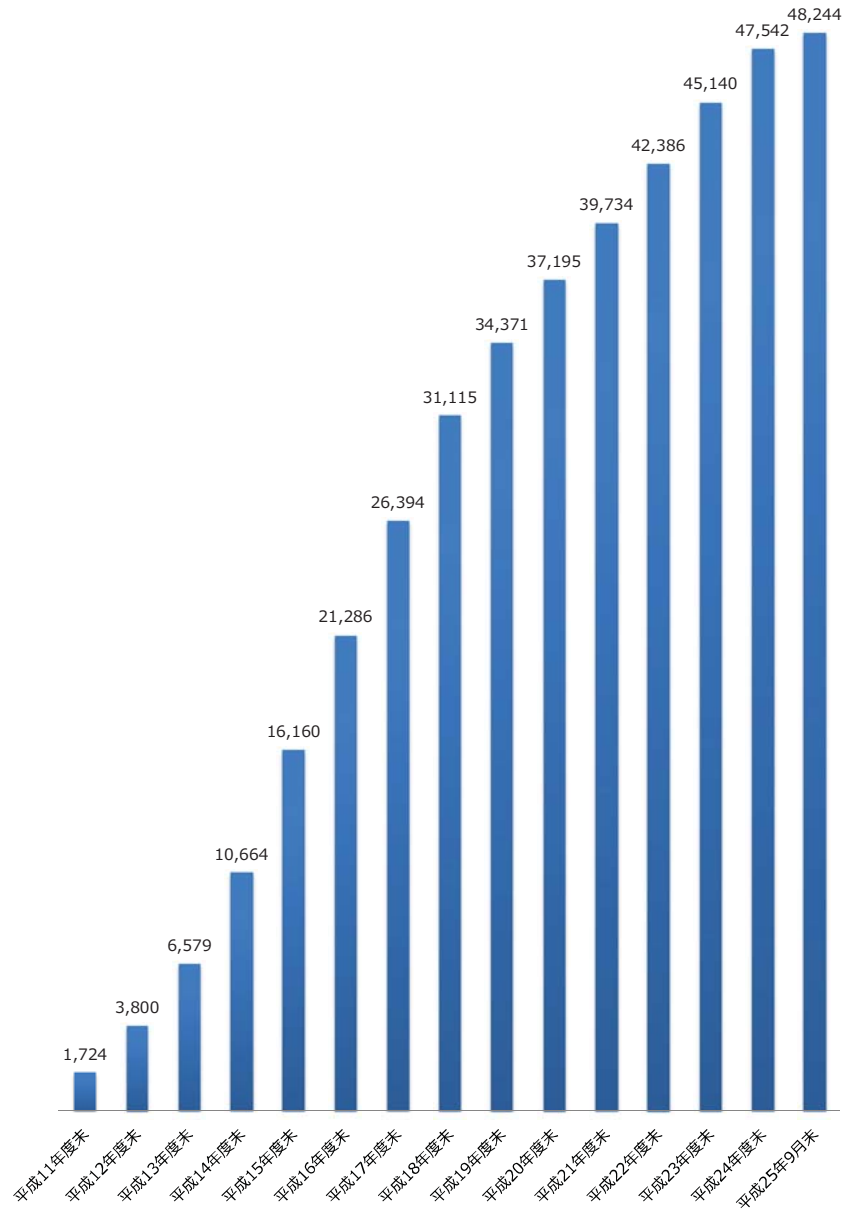


SNS利用時間 (年代別など)

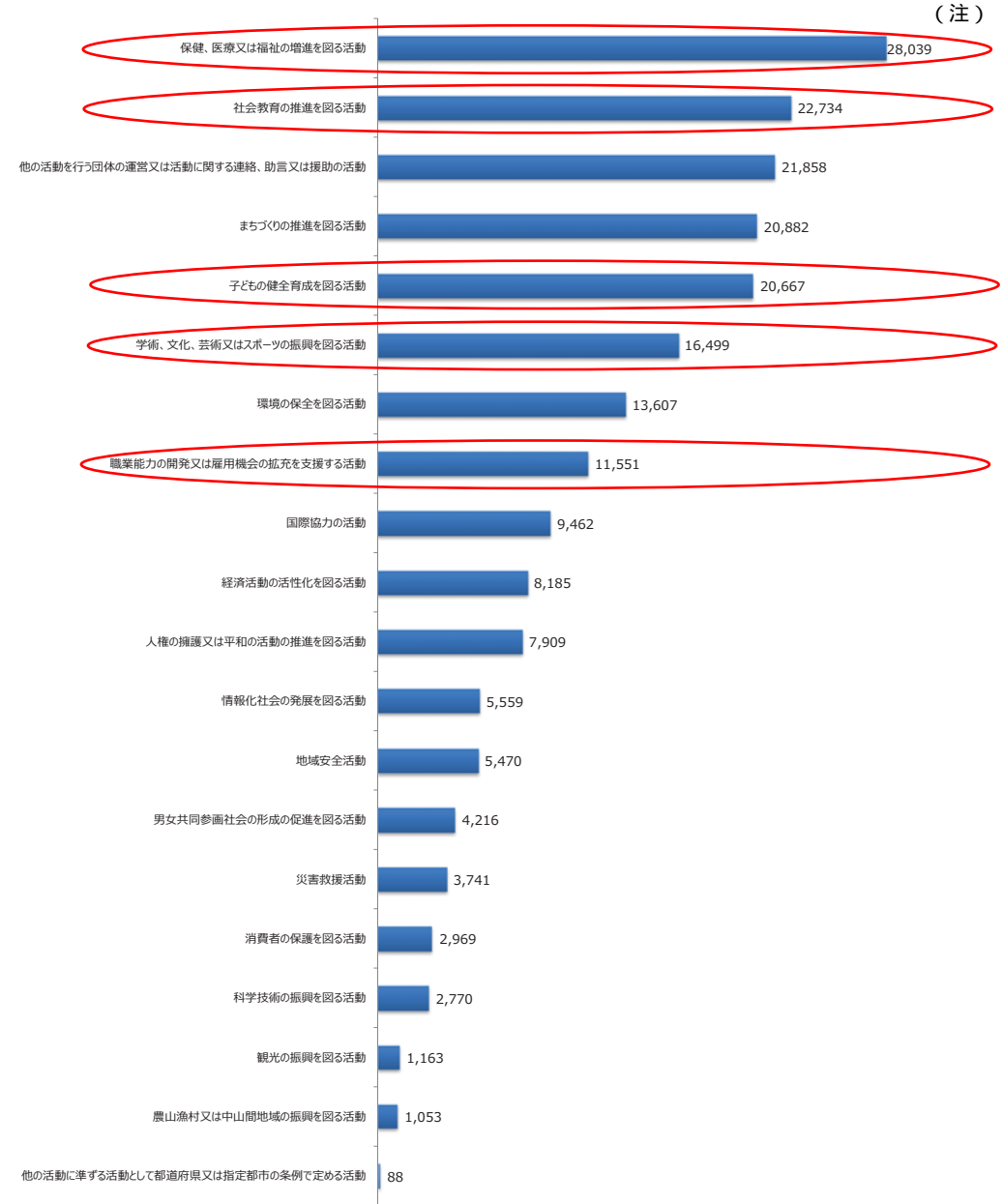
Q あなたは、普段自宅内・外を問わず、1日あたり以下にあげるインターネットメディアを、どのくらい見たり聞いたり、利用したりしていますか？パソコン、スマートフォン、タブレットなど、機器は問いません、すべての機器合計でお考えください。



NPO法人数推移

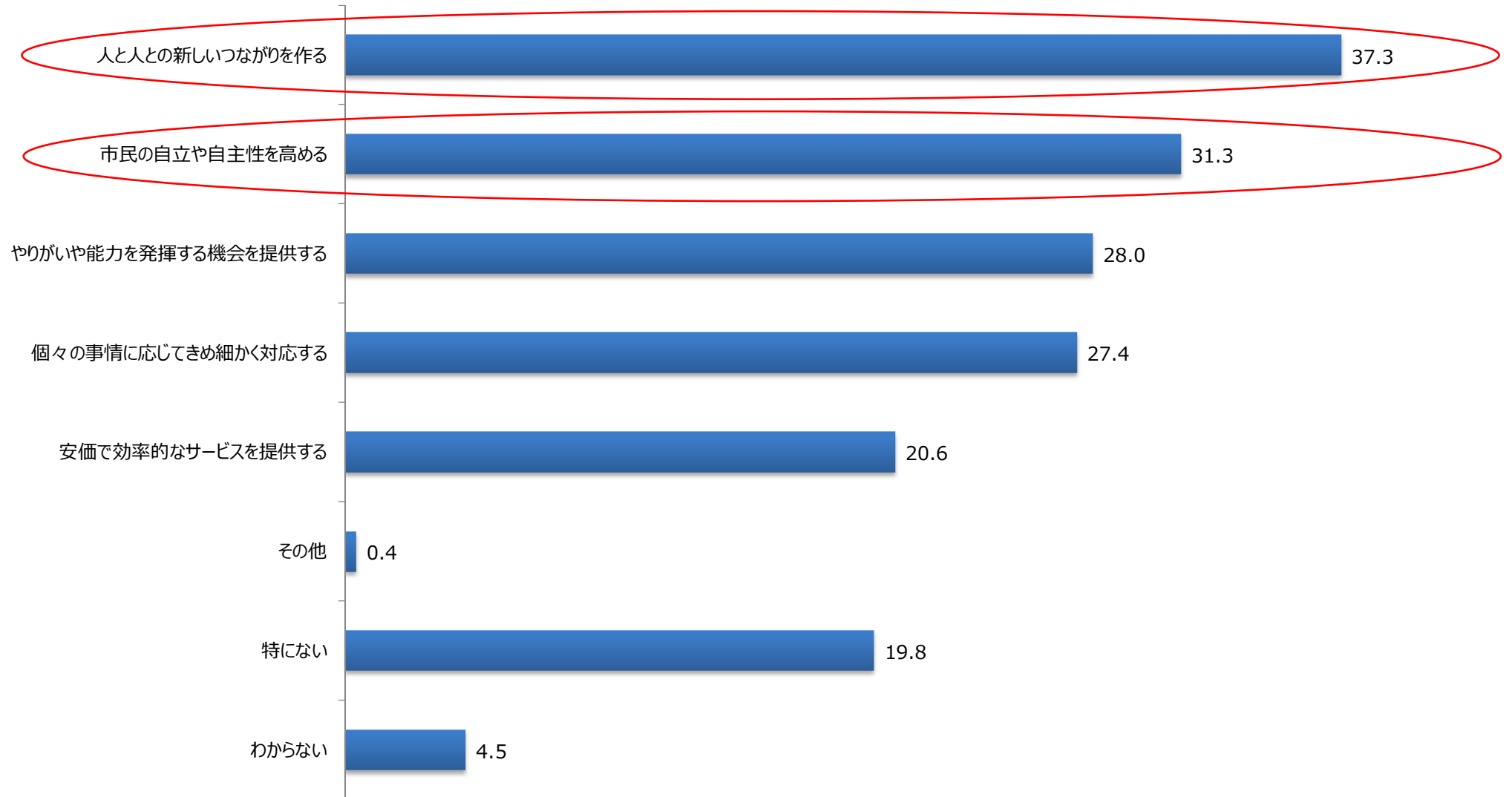


活動分野別NPO法人数（平成25年9月30日現在）



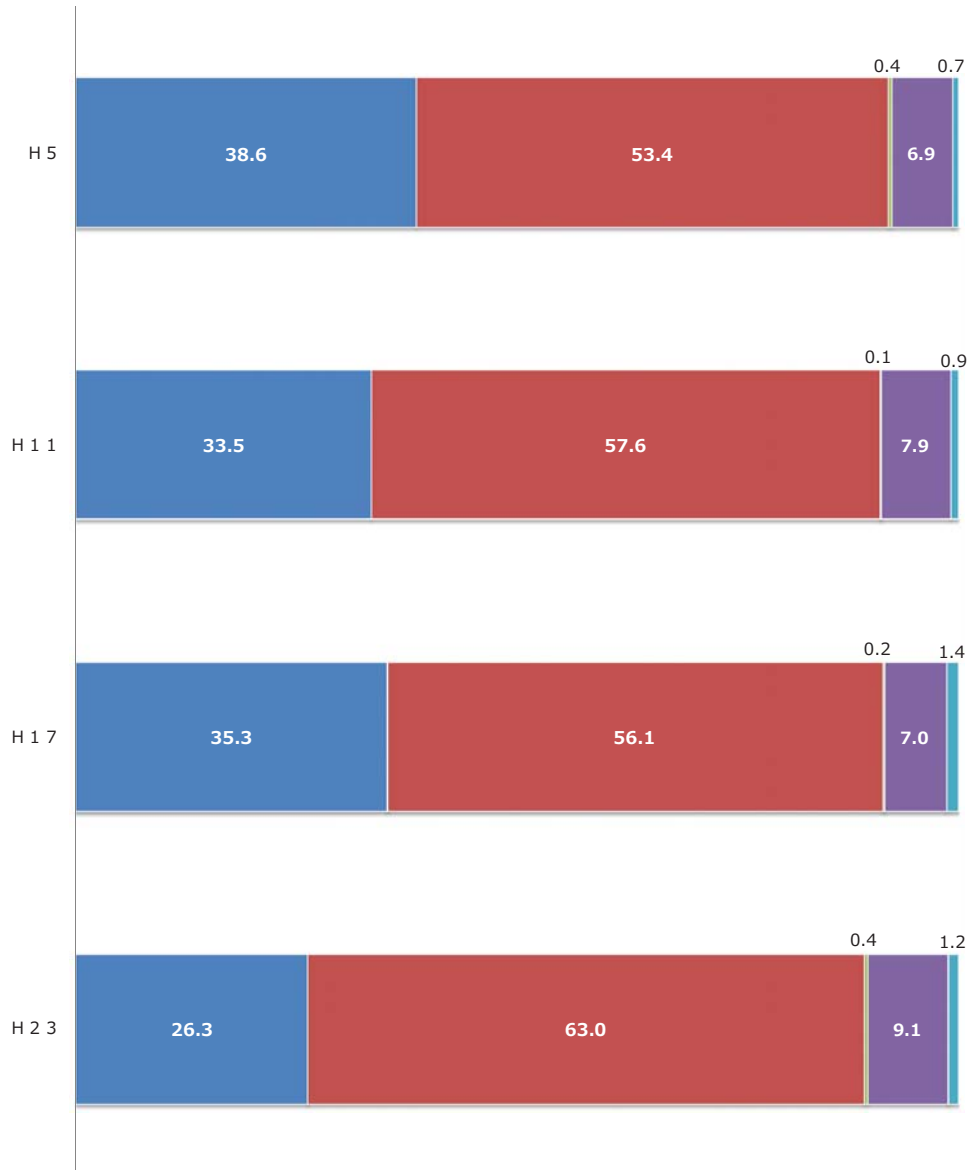
(注) 赤囲い：社会保障分野・教育分野

NPO法人に対してどのような役割を期待しているか（平成25年8月）



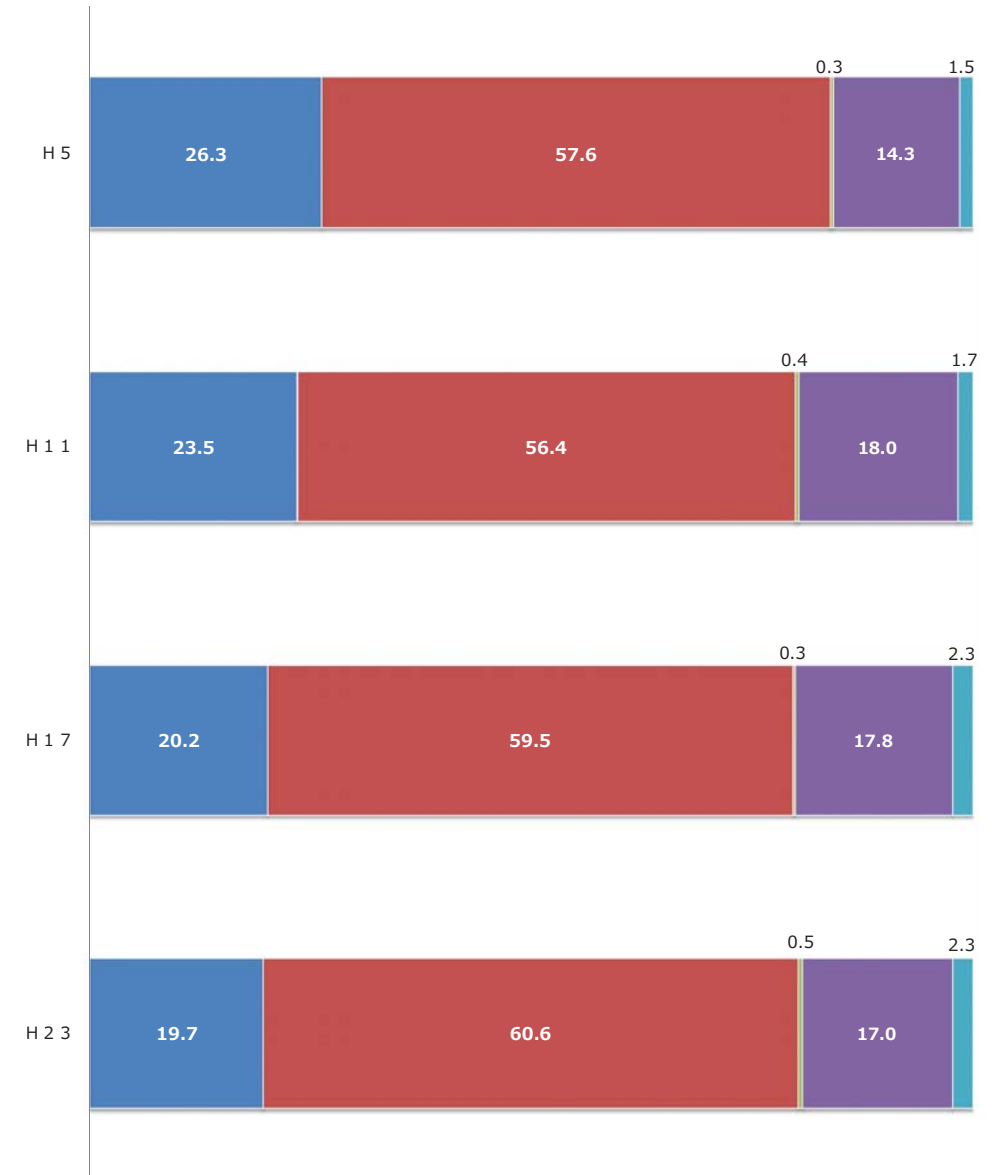
自分の住んでいる地域の人々との交流があることは大切だ

■ 全くそうである ■ どちらかといえばそうである ■ わからない・無回答 ■ どちらかといえばそうではない ■ 全くそうではない



家族や職場以外でも積極的に新しい人々とのつきあいを広げていきたい

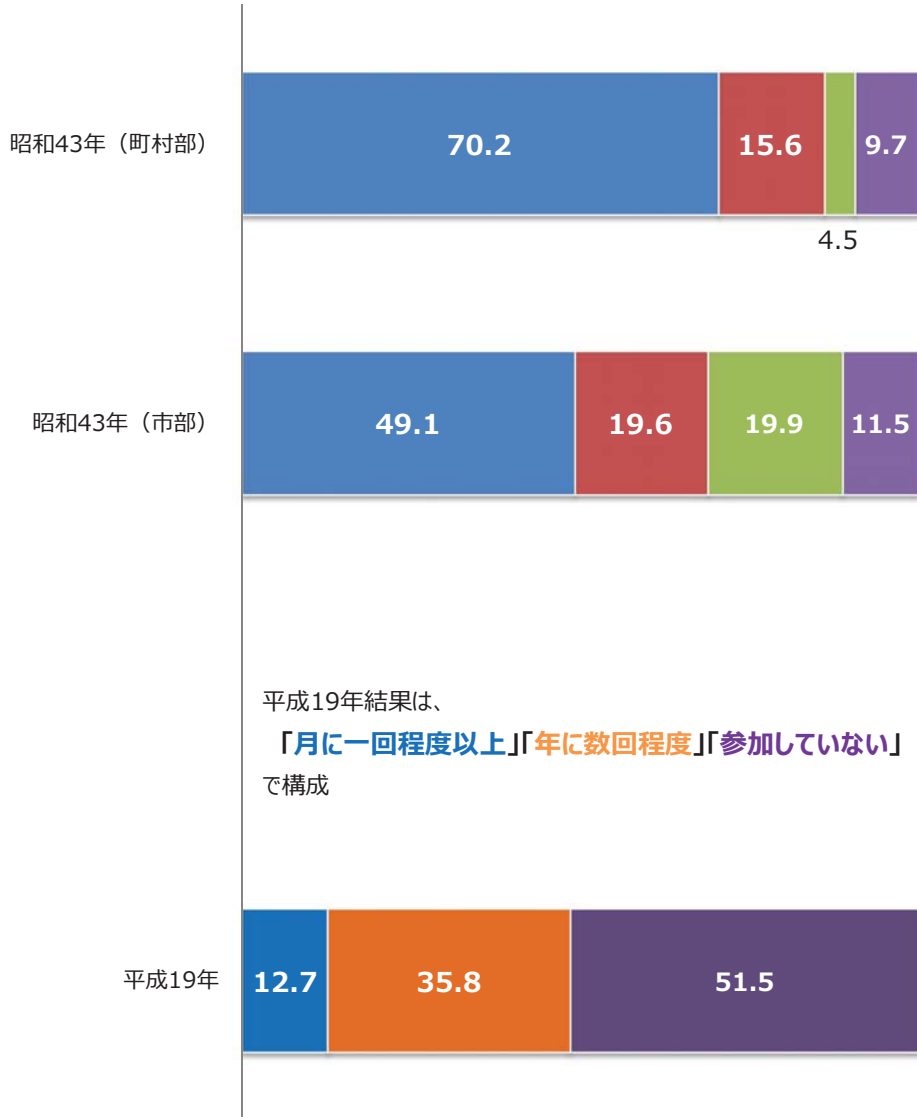
■ 全くそうである ■ どちらかといえばそうである ■ わからない・無回答 ■ どちらかといえばそうではない ■ 全くそうではない



内閣府「住民自治組織に関する世論調査」
 (昭和43年)及び「国民生活選好度調査」
 (平成19年)を基に、事務局において作成

町内会・自治会の参加頻度

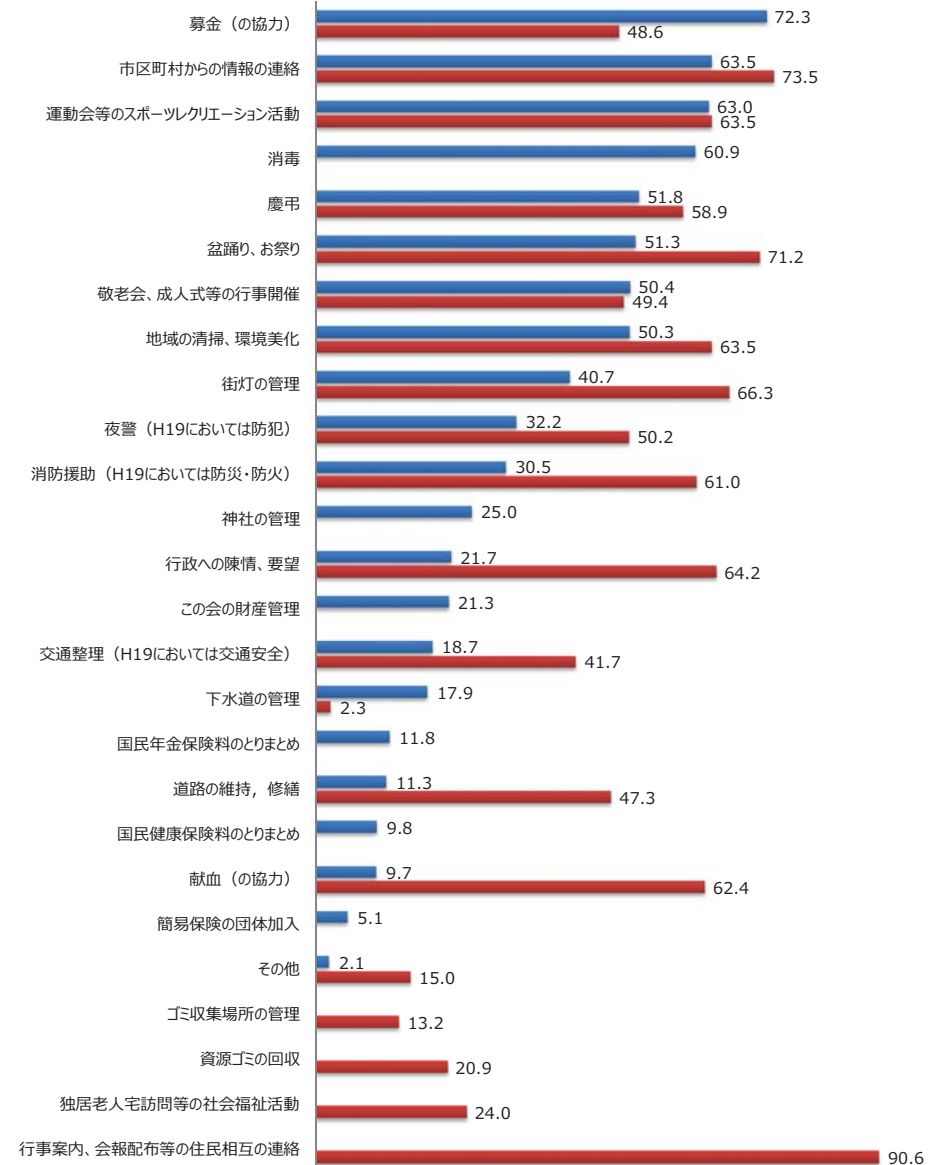
■ だいたい参加する ■ 時々参加する ■ ほとんど参加しない ■ 加入していない



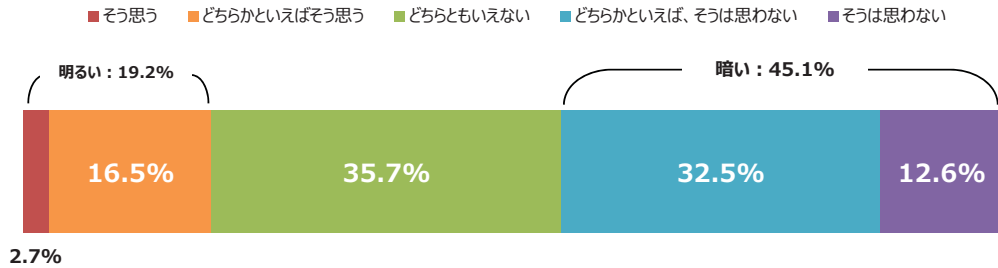
内閣府「住民自治組織に関する世論調査」(昭和43年)及び「町内会・自治会等の地域のつながりに関する調査」(平成19年)を基に、事務局において作成

町内会・自治会の役割・機能の変遷

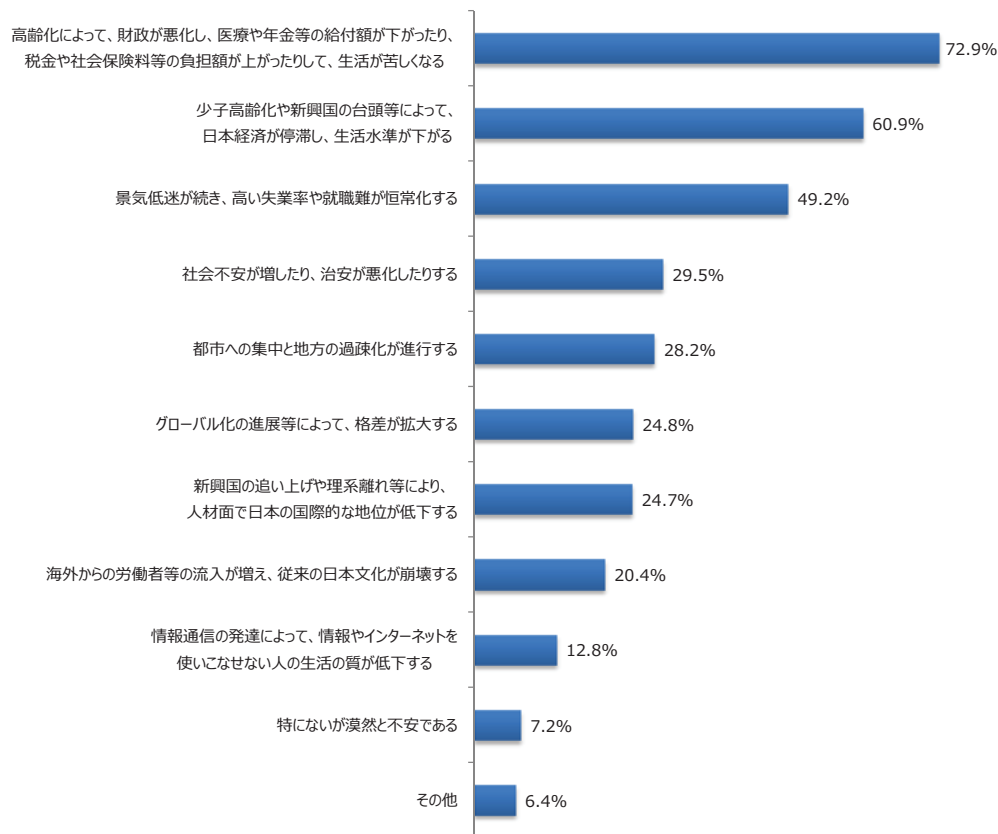
■ 昭和43年 ■ 平成19年



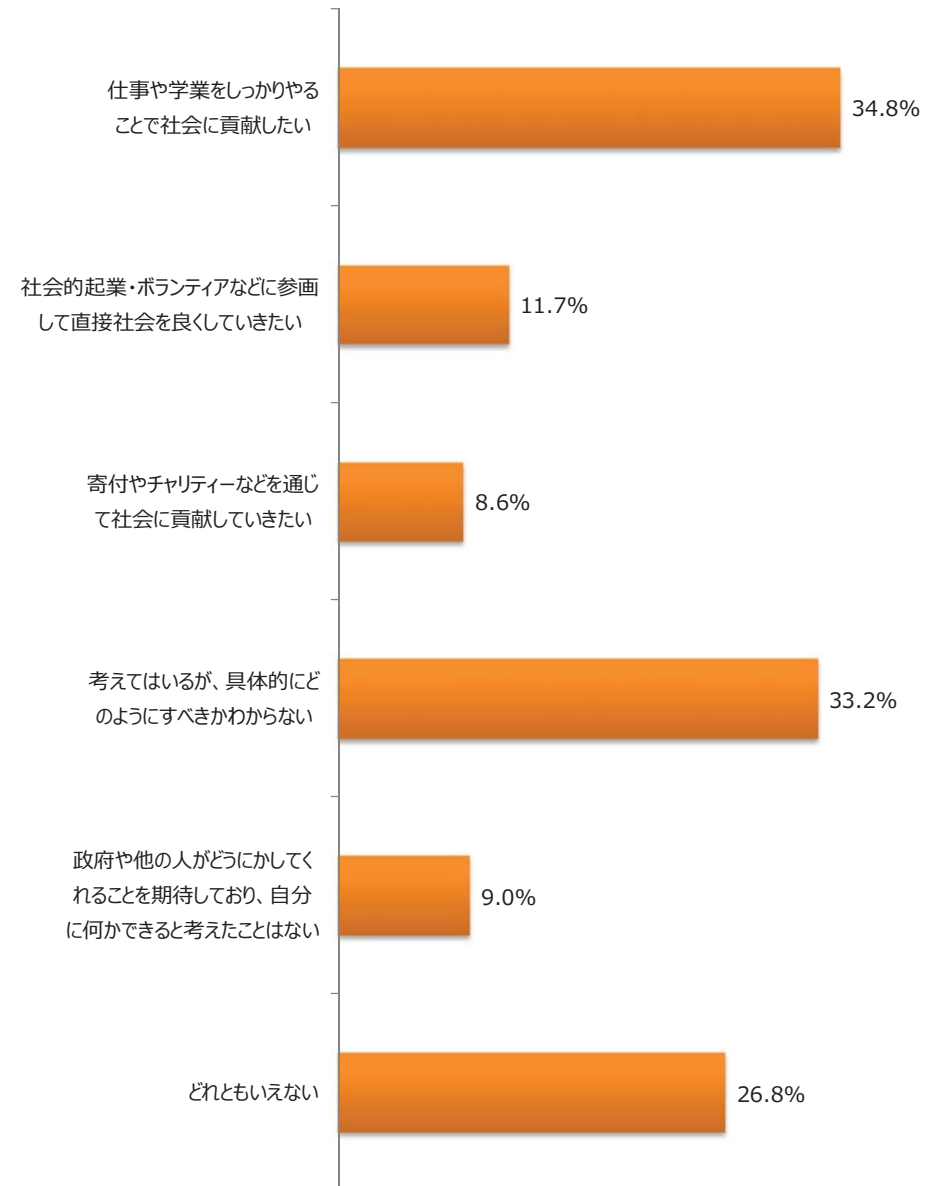
日本の未来は明るいと思うか？



日本の未来が暗いと考える理由（複数回答）

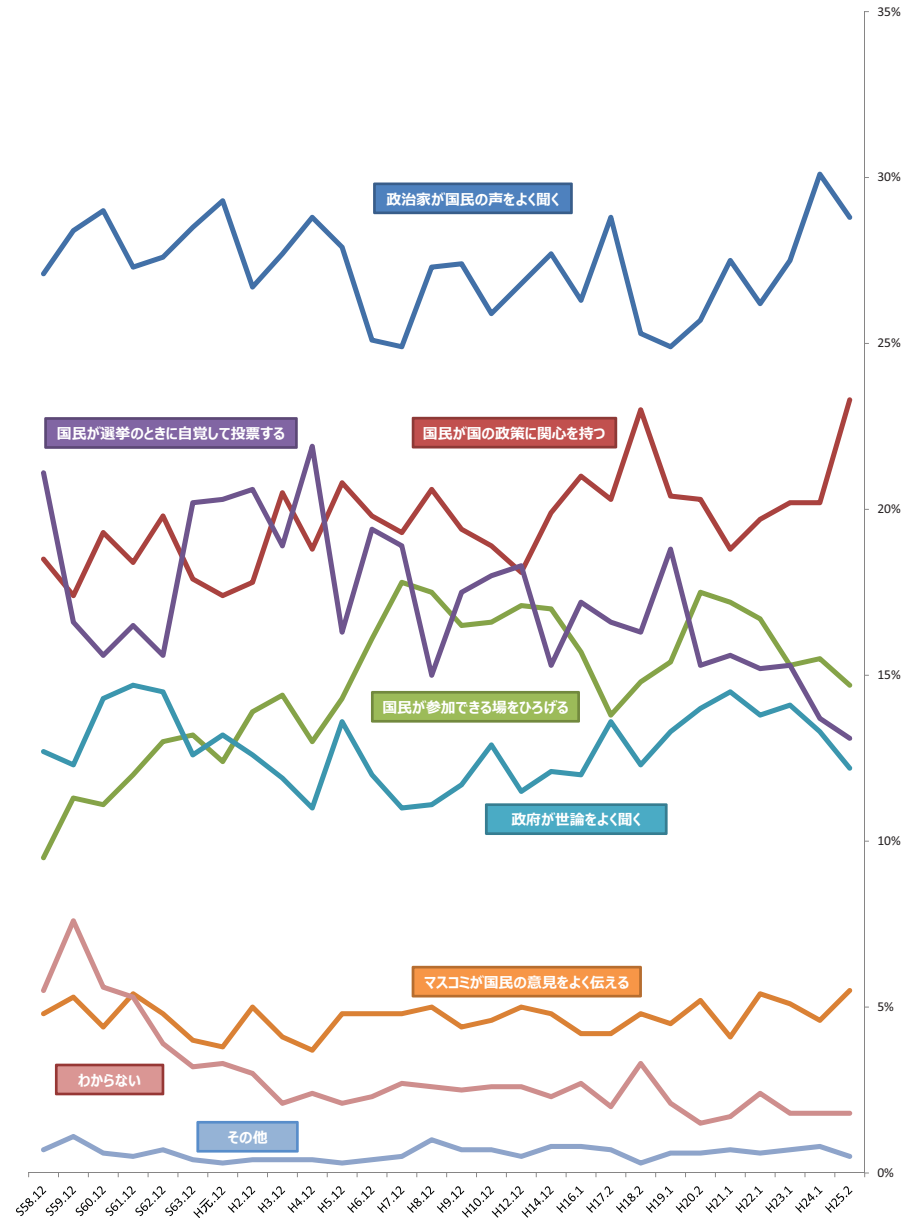


日本の未来を良くするために何をするか（複数回答）



内閣府「社会意識に関する世論調査」
を基に、事務局において作成

国の政策への民意の反映方法
(時系列)



国の政策への民意の反映方法
(「国民が国の政策に関心を持つ」が最も重要と回答した割合の推移)

